

一般社団法人 航空貨物運送協会

編集・発行人 広報委員会

東京都中央区新川1丁目6-1 アステール茅場町ビル4階
電話 (03) 6222-7571 (代) FAX (03) 6222-7577
URL <http://www.jafa.or.jp/>



年頭の辞



一般社団法人 航空貨物運送協会

会長 杉山 千尋

2026年の新年を迎え、謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

会員の皆様におかれましては、常日頃は、当協会の活動に、ご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。本年も何卒よろしくお願いいたします。

世界的に航空貨物需要回復の年となった一昨年に続く昨年2025年は、米国の関税施策導入、それに対する各国の対抗措置といった、貨物の輸出入動向や、企業の生産拠点・調達先の配置等に大きな影響を与える動きが発生した年となりました。

協会会員の国際航空貨物の輸出取扱いをみると、米国内向け輸出取扱いは、4月以降対前年比プラスで推移したものの、関税合意に基づく相互関税率が適用された8月以降11月まではマイナスで推移し、2025年1年間の合計は、対前年比1%減の13.6万トンとなりました。対世界全体の年間取扱合計は、82.4万トンで、対前年比2%増の結果となっています。

このような中、IATA予測によれば、2026年は、全世界の輸送量ベースで2.6%、アジア太平洋地域で6%の貨物輸送量の増加が見込まれています。米国と各国間の関税協議に一定の結論が得られ、不確定要素の一定程度は解消されたものと考えられますが、顧客の投資やサプライチェーンの変化の動向、自動車関連をはじめとする航空貨物の荷動き、EC市場の動向等を引き続き注視していく必要があると考えております。

昨年のもう一つの懸案が、航空保安制度の見直しへの対応でした。本年1月スタートした新制度は、検査手法に大きな変化をもたらすものであり、業界のみならず、荷主企業の皆様も、対応準備に追われたものと承知しております。

この一年間、当協会としても、国に対し、新システム移行への課題や解決策に関する意見具申と協議を重ねました。結果、極力円滑に新制度への移行を図るために必要な措置は講じていただいたものと考えておりますが、移行一年目ということもあり、協会として、新制度の運用状況に関する情報を収集し、必要な対応を図ってまいります。

航空貨物輸送を巡っては、IATAが本年1月より標準規格と位置付けたOne Record規格への対応、成田空港の新整備構想具体化への準備に加え、昨年春以来順次施行されているトラック関係法令の各改正や、下請法改正・いわゆる取適法のスタート等、各種法規制の分野でも昨今大きな動きがあり、適切に対応を図っていく必要があります。

変化の激しい環境下においても、会員各社の皆様が、航空輸送サービスを通じたサプライチェーン構築の基盤として、高品質かつ安定的な輸送の実現に尽力していただけるよう、協会活動の側面から最大限取り組んでまいりますことをお約束申し上げて、年頭のご挨拶とさせていただきます。



新年のご挨拶



国土交通省 大臣官房 総括審議官 兼 物流統括調整官
岡野 まさ子

皆様、新年明けましておめでとうございます。

2026年の新春を迎え、謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。

最近の我が国の物流は、物価高や担い手不足など、解決すべき様々な課題に直面しておりますが、国土交通省といたしましては、本年も、関係省庁と緊密に連携しつつ、我が国の物流がより良いものとなるよう、必要な施策をしっかりと進めてまいります。

物流は、国民生活や経済活動などを支える重要なインフラですが、2024年4月から、トラックドライバーに時間外労働の上限を定める規制が適用され、何も対策を講じなければ物流に停滞を生じかねない、いわゆる物流の「2024年問題」に直面していました。この物流の「2024年問題」につきましても、様々な取組の成果により、2024年度を越えても何とか物流の機能を維持できており、関係者の皆様のご尽力に心より敬意を表します。

一方で、引き続き担い手不足が深刻化する中で、必要な物流の機能を維持していくためには、今後も物流の生産性向上や取引環境の適正化に向けた取組が不可欠です。このため、物流の効率化に向けた新モデルシフトや中継輸送、ラストマイル配送の効率化、自動運転トラックの導入やトラック適正化二法の施行準備、荷主・消費者の行動変容に向けた先進的な取組の支援などの取組の強化を図っています。

こうした中、現在、政府においては、2030年度までの期間を物流革新の「集中改革期間」と位置づけ、国土交通省・経済産業省・農林水産省3省合同で事務局を務める有識者検討会において、次期「総合物流施策大綱（物流大綱）」の策定に向けた検討を進めているところであり、物流大綱にこれらの内容を反映すべく、議論を深めてまいります。

昨今の法改正の動向としては、昨年4月に施行された改正物流効率化法に基づき、荷主等に対して荷待ち・荷役時間の短縮などの物流効率化に向けた取組を求め、規制や、多重取引構造の是正に資する新たな制度を着実に実施してまいります。また、本年4月からは、新たに、大手の荷主等に対する中長期計画の作成や物流統括管理者の選任が義務付けられることとなります。加えて、事業許可の更新制、適正原価制度の導入等を内容とするトラック適正化二法の2028年からの施行に向けた準備を着実に進め、トラックドライバーのさらなる賃上げや労働環境の改善を目指してまいります。

加えて、本年1月から施行された中小受託取引適正化法において、適用対象となる取引に、製造、販売等の目的物の引渡しに必要な運送の委託が追加されたほか、国土交通省をはじめとする事業所管省庁に新たに指導・助言権限が付与されたことを契機として、公正取引委員会や中小企業庁との連携を強化しております。昨年10・11月の集中監視月間においても、公正取引委員会と連携し、初めて荷主等への合同パトロールを全国規模で実施し、改正物流効率化法や中小受託取引適正化法の周知啓発活動を合同で行いました。

本年は、2030年までの物流革新の「集中改革期間」において、重要な節目の1年となります。物流が直面する課題を確実に乗り越えていくため、政府一丸となって、全力で取り組んでまいりますので、物流行政の推進に対しまして、皆様方より一層のご理解とご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

最後になりますが、この一年、皆様方が各分野において大いに活躍され、益々のご発展を遂げられますことを祈念いたしまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。



新年のご挨拶

財務省関税局長

寺岡 光博



2026年の年頭にあたり、謹んで新年のお祝いを申し上げます。

一般社団法人航空貨物運送協会及び会員の皆様には、旧年中は関税政策・税関行政に多大なるご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。本年が皆様にとりましてより良い一年となりますよう、心からお祈りいたします。

ここ数年、国際物流を巡る環境は大きく変化しております。その背景には、越境電子商取引（EC）の拡大に伴う少額輸入貨物の急増や、世界各国におけるかつてない規模の関税政策・通商政策を巡る動きがあるものと認識しております。

関税局・税関としましても、取り巻く環境が大きく変化する中において、厳格な水際での取締りと迅速な通関の両立に努めています。

このような中、少額輸入貨物の急増に伴う水際取締り上の懸念への対応や適正な課税のあり方について広くご意見をいただく場として、「急増する少額輸入貨物への対応に関するワーキンググループ」が昨年6月に関税・外国為替等審議会の関税分科会の下に立ち上げられており、同年11月に中間とりまとめが公表されております。

本年は、この中間とりまとめを踏まえ、通関業者・保税業者の適正な業務運営の確保のための制度改正・運用の見直しや、国外EC事業者と国内小売業者の競争上の不均衡といった課題への対応を、着実に進めて

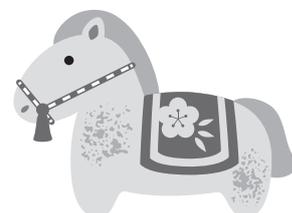
まいります。

金の密輸をはじめ、水際対策の強化も税関にとって差し迫った課題です。金の密輸は、足元の価格高騰を背景として一段と増加している可能性がうかがわれ、隠匿の手口も極めて巧妙化しています。昨年11月には財務大臣の指示を受け、関税局・税関一体で金密輸の総合的な対策を講じ、各税関において水際対策をより一層強化していくこととしました。

昨年は貴協会にテロ対策強化・不審情報の提供依頼や、年末の少額輸入貨物等に対する水際取締りについての周知にご協力いただきました。また、貴協会及び会員の皆様におかれましては、「社会悪物品等密輸防止キャンペーン」を実施いただき、会員企業や顧客荷主への啓蒙活動を積極的に行っていただくなど、日頃から水際対策にご協力いただきました。この場をお借りして、厚く御礼申し上げますとともに、引き続き、ご理解とご協力をお願いいたします。

貴協会及び会員の皆様は関税局・税関にとって重要なパートナーであり、同じ国際物流に携わる者として、日本経済の発展とともに貢献していければと考えております。今後も、貴協会及び会員の皆様からお寄せいただく声に耳を傾け、関税政策・税関行政を運営してまいります。

最後に、貴協会及び会員の皆様の益々のご発展を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。



Airport Cargo Eye

中部国際空港の貨物事業について

中部国際空港株式会社
営業推進本部 航空営業部
総合企画・貨物グループ長

高山 悠

日頃より中部国際空港（セントレア）をご利用いただき、誠にありがとうございます。

セントレアは2025年に開港20周年を迎えました。開港以来、航空貨物輸送拠点として変わらぬご支持を賜ってきたフォワーダー各社様をはじめ、関係者の皆様との歩みに深く感謝申し上げます。今後も、皆様のビジネスにより一層貢献できる空港を目指し、取り組みを推進してまいります。

貨物事業の現状

現在セントレアでは週39便の国際定期貨物便および週268便の国際定期旅客便が運航されています（2026年1月時点）。

北米およびアジア主要都市への路線が充実していることが特徴であり、中部地域をはじめとする航空貨物輸送需要に応じています。2025年度の国際貨物取扱量は約14万トンと予想しており、5年連続で前年を上回る見込みです。

地元企業の活動を支える物流拠点として

中部地域には、自動車、航空機、電子部品をはじめ、世界をリードする各種製造業が集積しています。こうした産業活動を支えるため、セントレアは国際物流の拠点として、空港機能の強化と利便性向上に取り組んでまいりました。

セントレアは国内でも数少ない24時間運用可能な国際空港です。深夜・早朝の貨物便運航に対応しており、輸送リードタイムの短縮や柔軟なスケジュール設定を可能にします。これにより、フォワーダーの皆様の国際輸送競争力強化に貢献しています。

加えて、空港島全域が総合保税地域に指定されており、柔軟かつ効率的な貨物取扱いが可能です。また、Sea & Air輸送に対応した岸壁を備えている点も特徴であり、一般道路での輸送が困難な超大型貨物にも対応できることは、大

きな強みとなっています。

地域課題の解決への取り組み

一方で、現状においては中部地域で発生する貨物の多くが他地域を経由して輸出されています。トラック輸送負担の増加やドライバー不足といった日本全体の物流課題を鑑みると、こうした状況には改善の余地があると考えています。

「中部の貨物は中部から」を合言葉に、フォワーダー様や荷主企業様との連携を強化し、セントレアの航空ネットワークのさらなる充実や物流拠点機能としての役割強化を図ることで、輸送の効率化やコスト削減に貢献してまいります。ぜひ、セントレアの一層の利用拡大にご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

なお、セントレア利用拡大の一助として、中部国際空港利用促進協議会による各種支援メニューもご用意しております。ぜひご活用ください。（フライセントレア・カーゴ Web ページ https://www.centrair.jp/fly_centrair_cargo/）

今後の展望

現在セントレアでは、完全24時間運用の実現および現滑走路の大規模補修といった喫緊の課題に対応するため、2027年度末の供用開始を目指し、空港島内に代替滑走路の整備を進めています。代替滑走路の完成後は、深夜・早朝時間帯における発着の柔軟な設定が可能となるほか、イレギュラー発生時の対応力も向上します。24時間空港であるセントレアの強みをさらに強化し、より安心・安定した航空物流基盤を提供してまいります。

セントレアは、フォワーダーの皆様の実務において「使いやすい」「提案しやすい」航空貨物空港であることを目指し、空港を取り巻くさまざまなステークホルダーの皆様と連携しながら、路線ネットワーク、運用面、インフラ整備の各側面において継続的な改善に取り組んでまいります。

皆様とともに競争力のある国際物流体制の構築を進めていければと考えておりますので、今後ともビジネスパートナーとして、セントレアの積極的なご活用を賜りますようお願い申し上げます。



代替滑走路完成後の中部国際空港セントレアイメージ



中部国際空港 貨物グループの皆さん（筆者中央）

東京都中小企業振興公社主催の「航空貨物の基礎を学ぶ」講座に講師を派遣しました

2025 年 11 月 26 日および 12 月 3 日の両日、公益財団法人東京都中小企業振興公社が主催する「航空貨物の基礎を学ぶ — 初めての航空貨物の取扱い」講座が開催され、JAJFA より講師を派遣しました。

本講習会は、昨年 8 月に開催された講座に続き、今年度 2 回目の開催となり、当日は 12 社 15 名の方が受講されました。

JAJFA からは、ディプロマ基礎講師および IATA 危険物インストラクターのほか、国際宅配便業務委員会、通関業務委員会からも講師を派遣し、航空貨物の基礎から実務に即した内容まで幅広く講義を行いました。

講義終了後の質疑応答では、インコタームズや輸出通関に関する質問が多く寄せられ、参加者の関心の高さがうかがえました。

東京都中小企業振興公社では、複数の貿易関連講習会を開催されていますが、本講習会はその中でも毎年安定して一定数の受講者を確保している数少ない講座の一つとのこ

カリキュラム

講習会講義プログラム	担当講師
航空貨物の基礎 (180 分)	JAJFA 専任講師
Airway bill および約款について、航空危険物について (60 分)	JAJFA 専任講師
輸出入通関業務について (60 分)	通関業務委員会
国際宅配便について - 越境 EC など (60 分)	国際宅配便業務委員会

とで、来年度以降についても継続実施の要望をいただいております。

JAJFA としても、教育事業は当協会の重要な柱の一つであることから、今後も業界人材の育成に資する取り組みとして、引き続き積極的に協力していく所存です。

(国際教育委員会)



IATA DG DIGITAL 説明会開催

2025 年 12 月 11 日に航空貨物業務における「IATA DG DIGITAL (デジタル化された危険物規程)」に関する説明会を開催しました。

本説明会では、デジタル化された新しい危険物取扱い規程および関連システムについて最新情報を共有し、会員企業の皆様における業務効率化やリスク管理の向上を目的とした内容が説明されました。

メインスピーカーとして IATA JAPAN が登壇したほか、ユーザー代表として 航空会社 2 社、フォワーダー 1 社の計 4 者より、実務の視点からの説明が行われました。

説明会の主な内容は以下のとおりです。

1. DG Digital の概要紹介
2. DGD のデジタル化に関する DGR 上の規則
3. DG Digital の機能説明

- DGD 作成機能
 - 電子署名のプロセス (フォワーダー・シッパー間の業務プロセス)
 - 署名済み DGD の提出プロセス (フォワーダー・エアライン間の業務プロセス)
 - DGD のコンプライアンスチェック (オプション機能)
4. 利用申請プロセス
 5. 質疑応答

当日は、オンライン約 280 名、対面 8 名の参加があり、多くの会員企業にご参加いただきました。

今後、早期の実装および運用への進展が期待されます。

尚、本件に関する問い合わせは、直接 IATA JAPAN へお問い合わせ願います。

(国際業務委員会)

【国内部会】 空港施設見学会を開催

国内業務・教育委員会では、2025年11月12・13日に日本航空様のご協力のもと、空港施設見学会（羽田空港）を開催いたしました。

会員企業の皆様を対象として、航空会社へ貨物を引き渡した後の実際の流れを見ていただくことにより、無申告危険物の撲滅、航空保安の意識向上を目的に、今回初めて開催いたしました。制限区域への立ち入りという関係から限られた人数での実施となりましたが、2日間合わせ計15名（引率委員各1名含む）の参加をいただきました。

見学会では、日本航空様より航空貨物概要のご説明（座学）をいただいたのち、日本航空様の上屋の様子や機側における搭降載の見学等、航空貨物の従事者でも普段見ることのない航空貨物の様子を間近で体験することができ、受講者にとっても非常に興味深く有意義な内容となりました。

本見学会は今後も開催を継続するとともに、開催場所を広げる等取り組みを拡大していきたいと考えております。同委員会では引き続き会員企業の皆様に向け新たな活動に取り組んでまいります。

（国内業務・教育委員会）



JAFASEMINA

「2026年1月施行! ~下請法は取適法へ~ 知っておきたい法改正のポイント」

下請法が改正され、2026年1月から取適法（中小受託取引適正化法）が施行されました。政策委員会では、この下請法の改正をJAFAセミナーのテーマとして取り上げ、2025年12月12日に公正取引委員会事務総局経済取引局より石井 悟様を講師にお招きし「2026年1月施行! ~下請法は取適法へ~ 知っておきたい法改正のポイント」と題し、ご解説いただきました。

約150名の皆さんに受講いただき航空フォワーダー事業に対する取適法の適用・運用を前提として解説いただき、質問事項に対しても、非常に丁寧に理解しやすくご回答いただきました。受講者アンケートでも非常に高い評価をいただきました。

（政策委員会）

公正取引委員会
Japan Fair Trade Commission

一般社団法人
航空貨物運送協会 様

2026年1月施行!
~下請法は取適法へ~

改正のポイント説明会

令和7年12月12日 13:30~



あなたの **3** コードは？

～ JAFA 活動を支える皆様に、お仕事、経歴、趣味、ペット、故郷の自慢話、お勧めグルメ、これからの夢、得意のレア語学、今ハマっていること、推しの人、、、自由に、3点ほど語っていただきます。～



副会長 兼 国内部会長
(ヤマト運輸株式会社)
恵谷 洋

これまでに世界のさまざまな国・地域において、またさまざまな企業や団体においてロジスティクスの仕事に携わらせていただきました。ロジスティクスとは、モノの移動と保管、その仕組み全体の最適化などを通して人と人を繋ぎ、さらにはその先にある自然と人をも繋ぐ仕事だと思えます。

航空輸送はロジスティクスの俊敏性を担保する上で欠かせぬものですが、そこで航空会社と共に重要な役割を果たすのが航空フォワードであることは言うまでもありません。その活動を支える JAFA

の役割もとても重要で、それに携わることができることに感謝しています。

さて、私が自身の人生において大切にしている3コードを、以下の通り紹介させていただきます。

【海】 海が大好きです。学生時代から今日に至るまで、世界と日本の各地を巡りながら、人と海のさまざまな関係性について探求してきました。船について学び、海運の仕事にも携わってきましたが、それはロジスティクスの原点であると同時に、今日のロジスティクスにおいても極めて重要なものです。また、自身の身体を用いて海と向き合うセーリング、カヤッキング、ダイビングなどのスポーツも、私の人生において欠かせぬものです。

【食】 食べるのが大好きです。飲食する際に大切にしているのは、食材を生み出した自然と生産者、また調理者の思いを知ること、あるいはイメージすることです。自身でも飲食店の経営に関わることがあったため、食の流通に対しては深い思いを抱いており、今後もそれを支えるロジスティクスに携わっていきたいと思います。

食の流通にはフードロスという社会問題があり、それを減らすことへの貢献もロジスティクスの重要な課題です。

【音】 音楽が大好きです。ジャンルにこだわることなく、心地よく感じられる曲は何でも聴きます。自身でもふとした時に心に浮かんだメロディーを展開して曲を作り、音楽仲間たちと共に演奏活動を行ってきました。かつてマレーシア出張中に突発性難聴にかかって高音域の音が聴こえなくなり、その影響で耳鳴りに悩まされた時期もありましたが、音楽によってそれを改善、克服することができてから、音楽への愛がさらに深まりました。



ナイトセーリング後に迎える日出です。自然の神々しさを感じます。



通関業務委員会委員長
(株式会社阪急阪神エクスプレス)
飯塚 英理

私の3コードは、「勤務地・登山・防災士」です。

原木・成田・品川・津田沼

1982年(昭和57年)阪急交通社に入社する際の最終面談で、おぼろげながら国際航空貨物の仕事に携わりたいと話した記憶があり、思いが叶ったのか原木 TACT で航空輸入通関に配属されました。当時の申告は午前11時の1回だけで、12時前に昼食を終えて13時間際まで市川市のリーグに所属していた野球チームの練習という、今では考えられないほど長閑な時代であり

ました。時代は流れ、成田空港の仕分け基準撤廃により原木から成田空港外事務所へ移転しましたが、第二ターミナル4F からバスで通勤するという離れ業で、しかも夜は9時頃がバスの最終便であったため仕事のやりくりが苦労した記憶がよみがえります。2013年、それまで航空輸入一筋の私が品川の京浜通関センターで海上貨物に携わることとなり、以降2017年までの5年間品川・青物横丁へ通いました。成田空港外勤務時代にコンビニすら近くに無い環境で育った私は、駅前に飲み屋が乱立している環境にウキウキし連日飲み歩いておりました。その後、現在の津田沼移転の際には取りまとめ担当として約1年にわたり成田、品川、横浜その他関連部署と毎週オンライン会議で打ち合わせを行い、無事移転できたことは良い思い出になっております。

登山

入社後に習志野の社員寮に入寮しました。その中に登山部出身の先輩がいて、登山経験の無い私を誘ってくれました。道具もないので神田の専門店ですべて揃えて、なぜか初登山が白馬(2泊3日)、その後、木曾駒ヶ岳、宝剣岳、穂高(北

穂高、奥穂高)などに登り、みんなが経験するように「キツイけど山頂から見る景色は何物にも代えがたい」という感動を得ていました。

最近では体のあちこちが痛み出したので、あまり無理をせずにいずれまた行きたいと思っております。

防災士

随分と歳を取ってからになりますが、2019年10月に防災士になりました。ただ、2019年後半からコロナが流行したことで防災士としての活動がままならない状況が続きました。その後、日本防災士会千葉県支部が設立され、HUG(避難所運営ゲーム)のファシリテーターなどの活動に参加させていただいており、今後も可能な限り防災活動に貢献したいと思っております。



IATA 認定資格試験結果について

2025 年 10 月以降実施しました IATA 認定資格試験（基礎コース・危険物コース）の結果を報告します。



基礎コース (Cargo Introductory Course)

IATA のシステム不具合により、現時点では実績データを取得できておりません。

なお、IATA より、システム改善は 11 月末をもって完了したとの連絡を受けており、これを受けて対象となる受験生に対し、12 月中旬以降に受験するよう案内を行いました。

また、申込みから受験日まで一定の期間が空いたことを踏まえ、受験生へのフォロー対応として、JAF A が受験対策用を実施している事前講習会について、追加開催を決定し、2025 年 12 月および 2026 年 1 月に実施いたします。

危険物資格取得コース (CBTA)

2025 年 10 月	受験者数	合格者 (pass)	合格率	高得点者 (Distinction)	高得点での合格者率	不合格者 (Failed)
7.3 コース イニシャル	14	14	100.0%	9	64.3%	0
7.3 コース リカレント	5	5	100.0%	4	80.0%	0
合計	19	19	100.0%	13	68.4%	0

2025 年 11 月	受験者数	合格者 (pass)	合格率	高得点者 (Distinction)	高得点での合格者率	不合格者 (Failed)
7.1 コース	3	3	100.0%	2	66.7%	0
7.1 リカレント	1	1	100.0%	1	100.0%	0
7.3 コース イニシャル	34	34	100.0%	29	85.3%	0
7.3 コース リカレント	21	21	100.0%	19	90.5%	0
7.2 コース	6	5	83.3%	5	100.0%	0
合計	65	64	98.5%	56	87.5%	0

高得点者：得点率 90% 以上

(国際教育委員会)

委員会等活動報告

10月	2日	政策委員会	JAF A セミナー振り返り、次回 JAF A セミナーテーマの検討、従業員実態調査の内容確認、他
	3日	国際宅配便業務委員会	EC 業界向けネットメディア 「EC のミカタ」開催のセミナーへの委員会からの登壇について
	8日	国内業務・教育委員会	空港施設見学会の設定、2026年度国内航空貨物基礎講習の詳細検討、他
	14～16日	国際教育委員会	CBTA 7.3講習会
	20日	国際教育委員会	IATA ディプロマコース IATA システムトラブルに関する情報共有 他
	22日	国際教育委員会	IATA ディプロマ事前講習会
	24日	保安委員会	第65回(東京)・第66回(大阪)航空保安教育訓練 実施
	28・29日	国際教育委員会	秋季国際基礎講習会開催
	29日	JAF A-BIAC 共同研究会	第21回成田空港地区貨物施設見学会開催
	31日	通関業務・情報合同委員会	社会悪物品密輸防止キャンペーン実施報告、国際航空貨物基礎講習会実施状況、他
11月	4日～6日	国際教育委員会	CBTA 7.1講習会
	10～13日	国際教育委員会	CBTA 7.3講習会
	11日	広報委員会	JAF A ニュース136号(秋号)最終編集会議、他
	12日	国際業務委員会	DG DIGITAL 説明会実施について、ONE RECORD 説明会実施の検討 他
	12・13日	国内業務・教育委員会	羽田空港施設見学会の実施
	17～19日	国際教育委員会	CBTA 7.3リカレントコース開催(東京)
	20日	国際教育委員会	CBTA 7.2講習会オンライン
	20日	国際交流委員会	委員長交代、FIATA WORLD CONGRESS 出張報告、今後の国際会議出席の確認 他
	21日	保安委員会	第67回(東京)・第68回(福岡)航空保安教育訓練 実施
	25日	国際教育委員会	IATA ディプロマ事前講習会
28日	空港対策委員会	JL 成田空港新国際物流拠点構想、他	
12月	4日	国内業務・教育委員会	空港施設見学会振り返り、国内航空貨物危険物セミナー設定、2026年度予算検討、他
	5日	国際宅配便委員会	中小企業振興公社主催講習会登壇報告、来年度国際基礎講習会テキスト見直しについて
	8日～10日	国際教育委員会	CBTA 7.3講習会
	10日	JAF A-BIAC 共同研究会	2026年賀詞交歓会打合せ、他
	12日	政策委員会	JAF A セミナー開催「2026年1月施行!～下請法は取適法へ～知っておきたい法改正のポイント」
	12日	政策委員会	今年度の活動状況と2026年度活動方針予算、JAF A セミナー振り返り、次回 JAF A セミナーの検討
	15日	国際教育委員会	2026年度活動計画、予算案について、国際基礎講習会上映資料見直し 他
	18日	国際教育委員会	IATA ディプロマ事前講習会
	19日	広報委員会	次年度活動方針と予算編成、JAF A ニュース137号(新年号)について、他
	19日	通関業務情報合同委員会	次年度活動指針と予算編成について、関税局および日本通関業連合会との意見交換について、他



BIAC-JAJA 賀詞交歓会



国際航空貨物航空会社委員会 (BIAC) と航空貨物運送協会 (JAJA) 共催による賀詞交歓会が1月9日 (金) にシェラトン都ホテル東京で開催されました。準会員・賛助会員を含むJAJA 会員合計 78 社 222 名、BIAC 会員 24 社 107 名、プレス関係 8 社 12 名、総計 341 名のご参加となりました。

主催者を代表し BIAC 木藤祐一郎会長の挨拶に始まり、両団体代表者 10 名による恒例の鏡割り、そして JAJA 杉山千尋会長の乾杯のご発声へと続き、和やかな雰囲気にも包まれながら交歓会が執り行われました。最後は BIAC 稲葉克哉副会長によるご挨拶と航空物流業界の更なる発展を祈願した三本締めで締めくくられました。(JAJA-BIAC 共同研究会)



新年のご挨拶、BIAC 木藤会長



乾杯の音頭、JAJA 杉山会長



中締めのご挨拶、BIAC 稲葉副会長



第27回 BIAC-JAJA賀詞交歓会

鏡割り



歓談風景

